⑮ 高女生の制服 （明治時代～）

学びや タイムスリップ

30年代、現代と同様に

戦前の女子中等教育学校である高等女学校（以下、高女）では、多くの学校で和装制服が定められていました。1899（明治32）年に高等女学校令が施行され高女生が急増し始めると、えび茶色のはかま姿をした高女生が俗に「えび茶式部」と呼ばれるほど、はかま制服をシンボルとした高女生が話題となりました。

高女生の制服が和装から洋装（セーラー、ブレザー）に替わるのは、そのおよそ20年後からです。写真①左は、1920（大正9）年に制定された日本初とされるセーラー制服（冬服）で、学校は平安高女（現平安女学院中・高、上京区）です。制服は好評で、他校生からも羨望視されていたようです。

また、当時は体操着が定められておらず、体育や運動会が制服姿のまま行われており、はかまよりも機動性に富むセーラー制服は実用的でした。

平安高女では1929（昭和4）年に冬服には赤いスカーフ（写真①右）、夏服には青いスカーフをネクタイ結びすること、体操着としてちょうちんブルマーを着用することが決められました。

京都市内の高女では、平安高女でセーラー制服が導入された1920年以降の10数年間で、制服の洋装化が急速に進みます。中には、市立第二高女（後の市立二条高女、閉校）のように体操着だったチューニックが制服になるケースや、京都高女（現京都女子中・高、東山区）のように当時の制服が現在の制服（中学）にほぼそのまま引き継がれている学校もあります。

ここでは1920年と30（昭和5）年頃の、府立第二高女の卒業記念写真を比較してみましょう。写真②の左が20年、右が31年頃の卒業記念写真です。和装から洋装への変化が高女生のイメージを大きく変えたことがわかります。洋装制服の方は今でも制服として違和感がありません。

また、当時の高女生の日記や回想、写真からは、30年代には制服だけではなく、授業形態、休み時間の過ごし方などが、現代とさほど変わらないものになっていたことが分かります。（京都市学校歴史博物館 学芸員 和崎光太郎）

◇

今回紹介した資料は学校歴史博物館（下京区）の企画展「京都の高等女学校と女学生」（3月29日まで）に出展しています。

写真1、日本初とされるセーラー制服（左）とレプリカ＝平安女学院蔵

写真2、京都府立第二高女の1920年（左）と31年の卒業記念写真＝京都市学校歴史博物館蔵